



東京シティガイド検定 別冊

この別冊では、テキストで扱うことのできなかつた「東京の最新情報」をご紹介します。

第1部では、東京を取り巻く観光状況を改めて確認するとともに、街並みの変化や最新の東京の魅力の一部をご紹介します。

2020年春から始まったCOVID-19によるパンデミック、いわゆる「コロナ禍」は、収束（＝5類への移行）までに約3年を要しましたが、行動制限解除後は、本格的に訪日旅行市場が回復し、パンデミックが夢だったかのような日々が戻り、このままのペースで推移すると、2024年暦年で過去最高となる3,500万人、旅行消費額8兆円が視野に入る状況となっています。

（引用：萩川直也観光庁長官／2024年7月19日会見より）

パンデミック後の訪日観光で注目されるのは、消費額の伸びと科目の違いです。2023年暦年の訪日客による旅行消費額は5.3兆円ですが、これは、人数がほぼ同じ2016年の3.7兆円の143%に達しています。科目毎にみると、宿泊は180%、飲食は158%、娯楽サービスが236%となっています。2023年の127%と訪日客数が最も多かった2019年比でも、消費額は全体で110%、宿泊は129%、飲食は115%、娯楽サービスは140%と2023年の方が高くなっています。一方で、買い物は2016年比で98%、2019年比で84%と低迷しており、総額の増大は宿泊などがリードしていることがわかります。

（出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」より）

消費額の増大は、円安の影響と考えることも出来ますが、それよりも、消費対象が、訪日客消費の代名詞であった「爆買い」から、サービス消費へと変化していることが注目されます。

こうした消費構造の変化に沿うように、東京都内の都市整備も大きく変化しています。2024年2月に開業した「豊洲 千客万来」は、2018年に開業した豊洲市場の場外市場に、2024年2月に誕生した施設ですが、江戸の町並みを模した日本最大級の木造建築物であり、年間200万人の来訪が見込まれています。もともと、旧市場である築地にも場外は存在していましたが、市場の豊洲への移転にあたり、場外の機能を計画的に集積させることで、魚介類を中心とした日本食や多様な食を体験できる象徴的なエリアとなりました。



豊洲 千客万来 (万葉倶楽部株式会社提供)

さらに、同施設の整備に合わせるように、チームラボプラネッツTOKYO DMM.com (2018)、ホテルJALシティ東京豊洲 (2019)、豊洲ぐるり公園手ぶらBBQ広場 (2020)、ラビスタ東京ベイ (2022)、WILDMAGIC - The Rainbow Farm - (2022) などが周辺に整備され、埋立地全体が市場機能 (物流機能) と集客交流機能を併せ持つ地域となっています。

集客交流機能を、その地に求められている都市機能と組み合わせることで、その土地ならではの経験を創り、ブランド化していくというアプローチは、住宅&業務&商業という形で、六本木ヒルズ（2003）、虎ノ門ヒルズ（2014）、麻布台ヒルズ（2023）といった大規模都市開発でも常用されるようになっていきます。

また、こうした新しい地域開発に対抗するように、渋谷駅、新宿駅、東京駅といった既存の商業地域においても継続的な再開発が進行するようになっていきます。

特に渋谷駅周辺では、鉄道駅機能の改修も含めた大規模な面的な再開発が展開され、街の雰囲気が大きく変化し、東京観光の象徴的なエリアとなっています。こうした開発にあたっては、高度に洗練された空間が現出されるだけでなく、「隠れた銘店」が誘致されることによって、飲食サービスや物販サービスの高付加価値化にも寄与していることも特筆できます。

今や、都市機能と観光、集客交流機能は不可分となっており、不動産投資が進むことが、東京の観光的魅力を高めることにつながっているのです。



麻布台ヒルズ（（公財）日本交通公社提供）

第2部 地域の魅力発信

地域の魅力

第2部では、東京都の各地域に暮らす人たちから見た「いまのまちの魅力」を紹介します。

東京都ではこれまで、シンボルマークの制定をはじめ、都民の鳥、都の木などを決定してきましたが、現在は、東京の魅力を国内外にPRするため、「Tokyo Tokyo」を活用した取組を進めています。

「Tokyo Tokyo」は、東京の魅力を国内外にPRするアイコンです。旅行地としての東京を強く印象づける「東京ブランド」の確立に向けた東京都の取組の中で誕生しました。筆文字のTokyoとゴシック体のTokyoは、江戸から続く伝統と最先端の文化が共存する東京の特色を表現しています。そうした部分をOld meets Newでも重ねて強調しています。

Tokyo Tokyo Old meets New



左のシンボルマークは、東京都の頭文字「T」を中央に秘め、三つの同じ円弧で構成されています。



都民の鳥「ユリカモメ」は羽は白く、くちばしとあしが朱色です。



都の木「イチヨウ」は公害や火にも強いので、街路樹としても使われています。

出展： <https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/tokyoto/profile/gaiyo/monsho.html>

出典： <https://tokyotokyo.jp/ja/about/>

次ページ以降では、この「東京ブランド」の考え方にに基づき、地域に暮らす人たちから見た「いまのまちの魅力」を、oldとnewを対比させる形で発信してもらいました。地域の魅力を是非再発見してみてください。

地域の担当者が語る
「私のまちのOld meets New」

一般社団法人 中央区観光協会



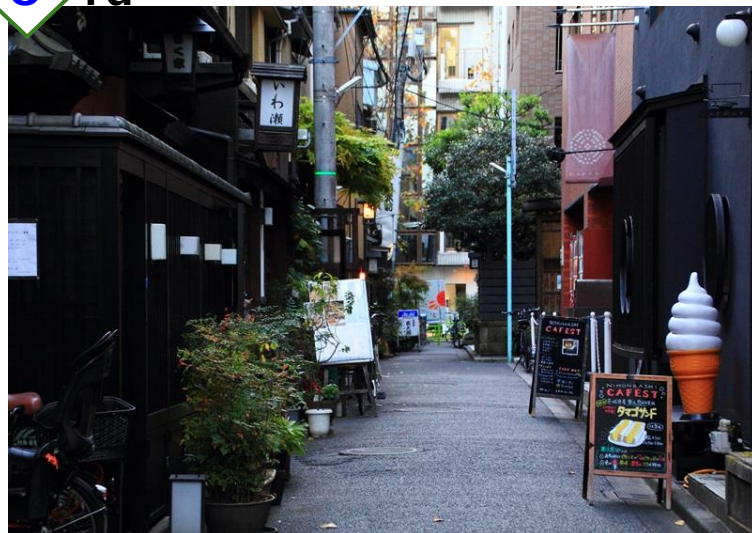
～私たちの仕事～

“良質で落ち着きと活気あふれる大人の街、中央区”。ちょっと敷居が高い日本橋や銀座、築地や人形町の老舗や専門店など、“本物”を楽しんでいただける街歩きコースの造成・ツアーガイド等の

育成、観光検定や写真コンクールなど、中央区のファンづくりに努めています。

また、旅のお手伝いをする中央区観光情報センターの運営やガイドマップ・webでの観光情報提供など、まちの皆様とともに、いつ来ても楽しめる街になるように活動しています。

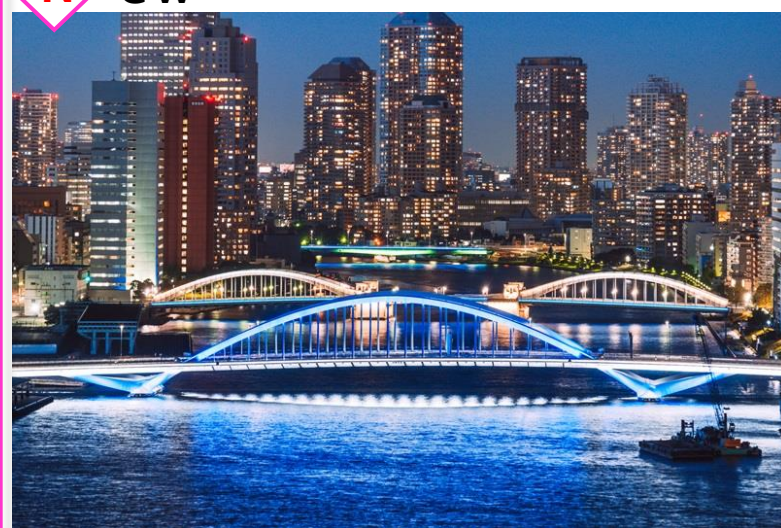
Old



人形町界限（中央区観光協会提供）

名橋「日本橋」を中心に繁栄した日本橋。江戸城下に物資を運ぶ水運が発達し、川沿いには魚河岸、道沿いには商家が並び、街が発展しました。老舗企業が多く軒を連ね、今でも大暖簾が皆様をお迎えする風情ある日本橋から、芳町花街の面影を残す芸者新道など江戸情緒を感じる人形町界限まで、趣ある街並みを歩きながら伝統の味や技をお楽しみいただけるエリアです。若い方や外国人の方に人気の隠れたスポットも探してみてください！

New



ライトアップの共演（中央区観光協会提供）

大規模なまちづくりの計画や構想が進行し、今後十数年の変化が楽しみな中央区。日本橋地域では、名橋「日本橋」上空の高架橋の撤去や周辺の再開発にともなう日本橋川の水辺空間、銀座エリアを囲む「K K線」や築地川アメニティ整備などによる“みどり”あふれる歩行者空間、築地市場跡地の多機能型スタジアムやMICE施設構想、地下鉄新線の計画などによる臨海地区の変化など、観光による街の楽しみ方が変わってくることをご期待ください。

地域の担当者が語る
「私のまちのOld meets New」

一般社団法人こくぶんじ観光まちづくり協会



～私たちの仕事～

国分寺市は天平の時代、聖武天皇の詔を受けて“武蔵国分寺”が建立された地ということもあり、昭和54年には国分寺市観光協会が設立されました。それから45年、令和6年に「一般社団法人こくぶんじ観光まちづくり協会」として法人化し、新たな一步を歩み始めました。国分寺市の活力を高める「観光まちづくり」を推進しています。

Old



桜ライトアップ（こくぶんじ観光まちづくり協会提供）

国分寺は悠久の歴史をもつまちです。「武蔵国分寺」は奈良時代、聖武天皇の詔により、仏教で国を安定させるために建立されました。古来風水で優れた地とされる「四神相応の地」に置かれ、東山道武蔵路に接し、湧水のある丘陵（国分寺崖線）を背にしていました。1333年の「分倍河原の戦い」で新田義貞軍の手により焼失したと伝えられ、現在は跡地が公園として整備されています。

最近では桜の花見スポットとしても人気で、毎年、3月下旬から4月上旬にライトアップが行われ、多くの人々で賑わいます。

New



国分寺市新庁舎（こくぶんじ観光まちづくり協会提供）

JR西国分寺駅の近くで、古代の幹線道路「東山道武蔵路」の道路跡が、車道より広い歩道の形で保存されています。このOLDなエリア周辺が、今NEWなスポットです。道路跡と都立武蔵国分寺公園に挟まれた場所に、2017年都立多摩図書館、2020年東京都公文書館が開館。2025年1月には国分寺市役所の新庁舎が開庁します。都立多摩図書館には雑誌約1万9000誌が揃っており、人気のパン屋もあります。駅近くには遠方からでも足を運ぶ人気のカフェもあり、本とカフェを愛する方から歴史好きまで、懐の深いエリアです。

第2部 地域の魅力発信

2024年9月現在

地域の担当者が語る
「私のまちのOld meets New」

特定非営利活動法人 神津島観光協会



～私たちの仕事～

神津島観光協会は年間行事である「渚の花火大会」や「盆踊り大会」などを実施し、島の観光を盛り上げています。島外においては、他島と連携をしてPRイベントなどに積極的に参加を行っています。

また、島内宿泊施設の予約、島内ガイドの手配、村内のお散歩ツアー、星空観賞会の実施、ガイドの育成などを行っています。

O ld



物忌奈命神社（神津島観光協会提供）

神津島は、昔は「神集島」と書かれていました。神津島に鎮座する物忌奈命（ものいなみのみこと）神社と阿波命（あわのみこと）神社の二社は、名神大社の社格を与えられている格式の高い式内名神大社です。毎年8月に行われる物忌奈命神社の例大祭では、江戸後期11代将軍家齊公の時代に始まった、国指定の重要無形民俗文化財に指定されている「かつお釣り神事」という古式にのっとりかつお釣りを再現、漁師たちが境内を駆け回り、島民をかつおに見立て釣り上げる楽しい行事が行われます。

N ew



星空観賞会の様子（神津島観光協会提供）

神津島は、美しい夜空を守る「星空保護区®※」に東京都で初めて認定された島です。夜になり、島全体が暗闇に覆われると、そこは天然のプラネタリウムに様変わりします。星空を守るため、神津島星空公園条例、神津島村の美しい星空を守る光害防止条例に基づいた取組を実施しています。

また2023年には、「神津島エコツーリズム推進全体構想」が環境省に認定されました。この構想に基づき、豊かな自然と文化・伝統を次世代に引き継ぐエコツーリズムを推進しています。

※星空保護区は一般社団法人星空保護推進機構（DPA）の登録商標です

学生が語る
「私のまちのOld meets New」

立教大学観光学部羽生ゼミ



～私たちのゼミ～

私たち立教大学観光学部羽生ゼミでは、観光地や地域の魅力を発掘し、誘客に結び付けていくための手段を研究しています。ゼミ合宿では温泉地の景観調査や他の温泉地との差別化について学び、その経験を活かして東京観光財団と提携し高尾山におけるとろろそばのブランディングや土産物磨き上げについての調査と提案を行ってきました。

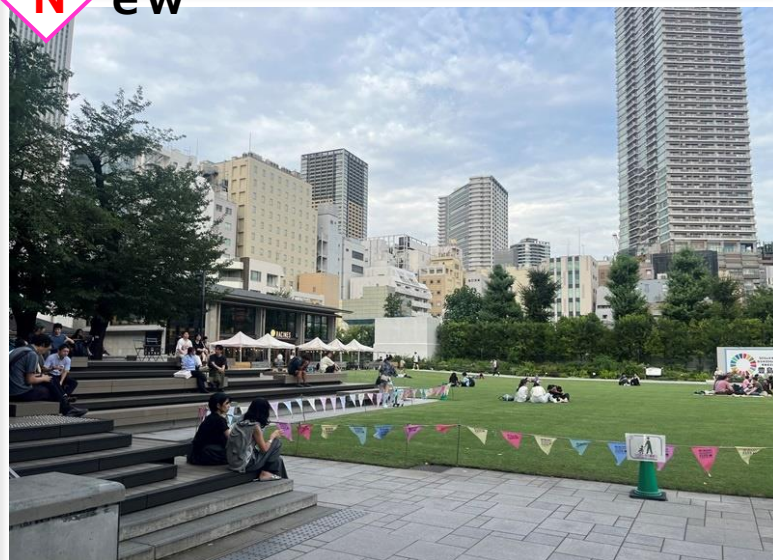
Old



サンシャインシティ（株サンシャインシティ提供）

豊島区には、池袋のシンボルともいえる大型複合施設「サンシャインシティ」があります。1978年に誕生したサンシャインシティは専門店街を中心とする商業施設だけでなく水族館やプラネタリウム、展望台など様々な集客力を持つ施設が揃っており、年間3,000万人以上が来場し、特に週末は多くの人で賑わっています。5つのビルが一つの街を作っており、雨の日でも屋外に出ることなく1日中施設内で楽しむことができます。

New



南池袋公園（羽生ゼミ学生提供）

池袋駅周辺では新設・再整備された4つの公園が注目を浴びています。池袋駅東口から徒歩5分程の「南池袋公園」には昼夜問わず多くの人々が訪れ賑わいを見せています。この公園のシンボルともいえる芝生は夏芝と冬芝を交互に生育させ、一年中緑の状態を保っています。大都会の中にありながらも家族や友達と過ごす時間をあえて「屋外」で楽しむことができるこの公園は「新たな人が集まるスポット」として多くの人に注目されています。

学生が語る
「私のまちのOld meets New」

多摩大学経営情報学部ながしまゼミ



～私たちのゼミ～

多摩大学は、東京都多摩市と神奈川県藤沢市にキャンパスを構え、小規模ならではの面倒見の良さが魅力の大学です。産官学民連携にも積極的で、自治体や企業との連携による共同研究を多数実施して

います。学生は2年生からゼミ活動に参加し、なかでもながしまゼミでは「地域の人々や団体をつなぎ、地域を豊かにすること」をミッションに掲げ、日々活動しています。学生がチームを組んで企画を一から考え、自治体や企業と連携しながら運営と実行を行う「つなぐカプロジェクト」には特に力を入れています。現在、10のプロジェクトを通じて、企業や地域の課題解決を図りながら、学生自身のプロデュース能力を高めることに注力しています。

O ld



多摩モノレール（多摩都市モノレール(株)提供）

多摩モノレールは2000年1月10日に全線が開業し、多摩地域の南北をつなぐ重要な交通路線として機能しています。2000年以降に生まれた私たちにとっては、やや古いイメージもある交通手段ですが、通学で利用している近隣の学生たちにとっては、非常に便利な存在です。特に一番前の座席は、緩やかなジェットコースターのような乗り心地が利用者に新鮮な驚きを提供します。このような意外な魅力が、多摩モノレールが長年にわたって地域住民や学生に愛され続ける理由です。

N ew



HUGTRATOPS（ながしまゼミ学生提供）

「HUGTRATOPS」は2024年3月13日に都内で初めてオープンした新しい屋外アスレチックタワーです。日野市にあるこのタワーは約16mの高さで、多摩モノレールの線路と同程度の高さになっています。全37種類のアスレチックアイテムを搭載しており、難易度別に3つのコースがあるほか、キッズコースも充実しています。この新しいアスレチックタワーは、都市部でのアドベンチャー体験を求める人々にとって刺激的で魅力的な場所となっています。